

「日本の老舗」第353号（隔月発刊）

発行：株式会社白川書院 「日本老舗百店会」事務局
令和6年(2024)年2月15日発行

「日本老舗百店会」は、三代以上または百年以上続き、世間の評判も良く、現在も盛業中の老舗の集いで、隔月誌『日本の老舗』を発行しています。本誌には老舗の逸品の紹介や店主のリレーエッセイや紀行、歴史、自然、伝統産業、花街などの連載が盛り込まれています。今回は連載の一つ〈日本の宿今昔〉にて紹介されています。



白川書院発行の『日本の老舗』第353号の連載〈日本の宿今昔〉④7にて奈良・日吉館が紹介されました。

奈良・日吉館：奈良市登大路町にあった旅館で大正2年(1913)に創業し、平成7年(1995)まで営業していました。

日吉館が開業したのは、大正2年(1913)。創業者は田村松太郎と妻のツネオ夫妻で、当時の奈良の実業家、木本家の山守だった。木本家は登大路に面した持ち家を増築し、松太郎への報酬として貸与しました。

松太郎の息子の妻・きよのが旅館を引き継ぎました。奈良の古寺や古仏を訪ねる文化人や学生が多く利用しました。夕食には肉や野菜がふんだんに入ったすき焼きが出されましたが、就寝は相部屋で雑魚寝、暖房は丸火鉢か炬燵(こたつ)で、格安で提供されていました。

宿泊客は朝早くから、きよのに起こされ「奈良に勉強に来たのでしょうか」と布団を片付けられて叱られたといひます。向学心や探求心を持つ宿泊者を好み独特の人柄が宿泊者に愛された。また、古美術や古寺に関心を持つ宿泊客同士の交流があり、「奈良古美術大学の学生寮」と呼ばれて支持を集めました

大正11年(1921)には会津ハ一が宿を利用しはじめ、昭和5年(1930)に日吉館の看板を揮毫した。

昭和57年にきよのが営業を退いた後、有志により会員制で営業が続けられましたが、平成7年に廃業しました。日吉館の建物は平成21年に取り壊された。



会津ハ一揮毫の看板が掲げられていたかつての日吉館 昭和52年頃
写真提供：福川美佐男氏



会津ハ一揮毫の看板

掲載の写真は
奈良県立図書館今昔WEBより